

桜蔭俳話会 八月句会 (第三八六回)

令和二年八月二十五日 (メールによる句会)

五句の選句 (そのうち、特選一句)

- 2点① 両頬のしみ深くあり今朝の秋 いつ子
- 4点① 正直に影も老ひたり今朝の秋 潤子
- 2点 海光や足場解かるる今朝の秋 明美
- 3点 しとやかに俯く百合や真昼かな 邦子
- 3点 秋暑し重き字引をもて余し ヤエ子
- 今朝秋の缺の音を御用邸 才美
- 1点 あれこれと断捨離のこと今朝の秋 直子
- 2点 伏兵のごと現れて稲雀 秀夫
- 1点 ずつしりと命の水や今朝の秋 守
- 2点 しがみつく孫抱きしめた今朝の秋 和幸
- 2点① 恐々と測る体温今朝の秋 友子
- 川風や仕事帰りの今朝の秋 眞壽
- 2点 秋立つや離島にコロナ置き去りに 明美
- 雷鳴に咲く向日葵の逞しく 直子
- 3点① コンビニのおにぎりひとつ終戦日 友子
- 御馬の親子少しお瘦せか今朝の秋 いつ子
- 生命の強さ知りけり水すまし 邦子
- 朴の花月にあづけてより眠る 才美
- 2点① 月白や君つぶやける詩語ひとつ 守
- 2点 流れ星願いはいつも間に合わず 眞壽
- 1点① たいそうな名の朝顔や地味に咲く 潤子
- 1点 よべの雨草木生き生き今朝の秋 ヤエ子
- 盆踊り座り手を打つ翁かな 秀夫
- そわそわと孫をむかえる今朝の秋 和幸
- 2点 蝉生まる固き地面の穴あまた ヤエ子
- 秋暑し明日こそ出社しなければ 守
- 秋たつや遊ぶ風の子其処此処に いつ子
- 1点 蜻蛉群れ童離れて缶蹴りす 明美
- 4点 あの島もこの島もけふ終戦日 秀夫
- 新豆腐どこに違いがあるのかな 眞壽
- 1点 たまさかに想い出す人今朝の秋 邦子
- 死後のこと託してきたりさくらんぼ 直子
- 微睡めば日射しかげりしセミしぐれ 和幸
- 3点 今朝の秋たたみいわしの目の静か 潤子

- 情熱のほどよき火照り桃を食ふ 才美
- 1点① 稲妻や切り裂かれたるコロナの世 友子
- ごきぶりの手品のやうに消え失せし 潤子
- 星流る旅の一夜を徹宵す 邦子
- 立秋の空気燃え立つ岬かな 明美
- 餌探す白鷺の歩の広きかな ヤエ子
- 1点 水打つて袋小路のジャズクラブ 才美
- 朝蟬や一人のサラダ拵へる 直子
- 4点 今朝の秋から乾けるズボン履く 秀夫
- 1点① 寡黙なる哲学の道今朝の秋 守
- 4点① 盆休み子らの来ぬ日の茶漬けかな 友子
- 1点 エアコンに聞いてはみたが秋はまだ 和幸
- 1点 喪服着て入所者送る夏の昼 眞壽
- ゆれかはす梢を渡る今朝の秋 いつ子
- 夏も終わりあまりごはんはチャーハンに 和幸
- ハンガーに星の貨物服飾校 秀夫
- 1点 翅一枚そろりと動く蟻の道 ヤエ子
- 1点① 歩の止まる坂の途中の紅芙蓉 潤子
- 風呂上り天瓜粉付けてよちよちと 眞壽
- 1点① 月白や吾が青春の日の蹉跎 守
- 3点① 夏草や人逝くときも飯を食ふ 才美
- 秋ざくら迷路ゲームの信濃口 いつ子
- 2点 予定なくも地図なぞる旅星祭 友子
- 友二人呼んで西瓜の種飛ばす 直子
- 静かなる港湾施設星月夜 明美

【事務局から】

○九月句会

九月二十日(日)午後一時から、旭区民文化センター(サンハート)で行います。

○十月句会

十月二十五日(日)午後一時から、旭区民文化センター(サンハート)で行います。